

# 日本文学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
日本文芸形成論特論Ⅰ	室生犀星の王朝小説	2	横溝 博	後期 水曜日 4講時
日本文芸形成論特論Ⅱ	江戸の雅俗	2	神作 研一	通年集中 その他 連講
日本文芸形成論特論Ⅲ	詩と散文のあいだ	2	仁平 政人	前期 水曜日 4講時
日本文学総合演習Ⅰ	日本文学史の考究とその論述	2	佐倉 由泰・仁平 政人・横溝 博	前期 火曜日 4講時
日本文学総合演習Ⅱ	日本文学史の考究とその論述	2	佐倉 由泰・仁平 政人・横溝 博	後期 火曜日 4講時
日本古典文学研究演習Ⅰ	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	前期 月曜日 4講時
日本古典文学研究演習Ⅱ	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	後期 月曜日 4講時
日本古典文学研究演習Ⅲ	『今昔物語集』の表現形成	2	佐倉 由泰	前期 木曜日 2講時
日本古典文学研究演習Ⅳ	『今昔物語集』の表現形成	2	佐倉 由泰	後期 木曜日 2講時
日本近代文学研究演習Ⅰ	近現代文学における〈生き物〉 表象	2	仁平 政人	前期 水曜日 2講時
日本近代文学研究演習Ⅱ	近現代文学における〈生き物〉 表象	2	仁平 政人	後期 水曜日 2講時

科目名：日本文芸形成論特論 I / Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LM23401, 科目ナンバリング：LJS-LIT601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：室生犀星の王朝小説

2. Course Title (授業題目)：Murou Saisei's dynasty novel

3. 授業の目的と概要：室生犀星の王朝小説を原典の古典作品と読み比べることで、古典文学の世界を近代小説の翻案を通して学ぶ。授業の進め方としては、各回に指定されている犀星の王朝小説と原典となっている古典作品をあらかじめ精読し、教室では読書会形式をとることで、鑑賞を交えた批評を自由に述べてディスカッションしていく。教員はモデレーター役を務めるが、受講生全員が意見を述べ応答し合うインタラクティブな場を作り、継続的なテーマを発見していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will learn the world of classical literature through adaptations of modern novels by reading and comparing Murou Saisei's dynasty novel with the classic works of the original text. As for how to proceed with the class, carefully read Saisei's dynasty novel designated for each lesson and the classic works that are the original texts in advance, and take the form of a reading party in the classroom to freely state and discuss criticisms including appreciation. The faculty will act as a moderator, but the aim is to create an interactive place where all the students can express their opinions and respond to each other, and discover continuous themes.

5. 学習の到達目標：・室生犀星の王朝小説を原典と読み比べることで、それぞれのテキストの世界観の相違について学ぶ。

・原典となった古典作品の表現を学び、テキスト読解の方法を身につける。

・王朝小説における古典作品の翻案のありようについて学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：・ Learn about the differences in the worldview of each text by reading and comparing Murou Saisei's dynasty novel with the original texts.

・ Learn the expressions of the original classic works and learn how to read texts.

・ Learn about the adaptation of classic works in dynasty novels.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

室生犀星の王朝小説のうち、原典が特定される作品を輪読する。授業は対話的に行い、質疑応答をメインとしながら、王朝小説および古典作品への理解を深めていく。また、作品の初出誌や収録された単行本についても目配りすることで、作品が発表された当時の社会状況や掲載されたメディアとの関係性についても学んでいく。(以下の進度および作品は例です。実際は受講者の希望によってテキストを選択します。)

01. ガイダンス～授業の進めかた
02. 導入～室生犀星の王朝小説と古典作品
03. 「姫たちばな」(『大和物語』)
04. 「花桐」(『伊勢物語』)
05. 「巴」(『平家物語』)
06. 「筑紫日記」(『大和物語』)
07. 「あやの君」(『大和物語』)
08. 「狩衣」(『大和物語』)
09. 「萩吹く歌」(『大和物語』)
10. 「津の国人」(『大和物語』)
11. 「津の国人」(『大和物語』)
12. 「虫姫日記」(「虫めづる姫君」)
13. 「虫の章」(「虫めづる姫君」)
14. 「舌を噛み切った女～またはすて姫」
15. まとめ～王朝小説とは何か

8. 成績評価方法：

授業への参加(出席・質疑応答)(60%)、期末レポート(40%)。

9. 教科書および参考書：

【教科書】

室生朝子編『室生犀星全王朝物語 上下』(作品社、1982年)

岩波文庫『犀星王朝小品集』(岩波書店、2017年、第8刷)

【参考書】

三好達治他編『室生犀星全集』(全12巻、新潮社、1964-1968)

室生朝子、本多浩、星野晃一編『室生犀星文学年譜』(明治書院、1982)

大橋毅彦著『室生犀星への/からの地平』(若草書房、2000年)

高瀬真理子著『室生犀星研究 小説的世界の生成と展開』(翰林書房、2006年)

西田谷洋編『室生犀星王朝小説の世界』(一粒社、2012年)

1 0. 授業時間外学習：【予習】指定された室生犀星の王朝小説を、その原典となっている古典作品とともに可能な限り精読する。

【復習】プロットを共有する他の王朝小説（授業時に補足説明します）を併せて読み、原典となった古典作品の他出（授業時に補足説明します）についても読むことで授業時の学習ポイントを明確にする。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：日本文芸形成論特論Ⅱ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：通年集中 その他 その他

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：神作 研一

コード：LM98810, 科目ナンバリング：LJS-LIT602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：江戸の雅俗

2. Course Title (授業題目) : Refined Literature and Popular Literature during the Edo Period

3. 授業の目的と概要：日本近世文学の全容と特質を視野に収めながら、特に雅文学を主たる対象としてその展開の種々相と達成を考える。和本（モノ）、翻字や注釈などの基本的な手続きを確認しながら、ジャンルの関係性にも配慮しつつ、江戸に即して実証的に解析する研究方法を学ぶ。基礎と応用を自在に往還して最新の近世文学研究を追跡し、文学とは何か/古典とは何かということをお皆さんと一緒に考え、現代に生きる私たちにとってどんな意味があるのかをも探りたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Considering the entirety and characteristics of Japanese early modern literature, with a focus on the field of refined literature, students will explore the various aspects and achievements of its development. While solidifying foundational knowledge about Japanese books (as objects) and mastering the basic processes of transliteration and annotations, students delve into exploring relationships with other genres and examining the distinctive characteristics of the Edo period. Throughout this process, they acquire research methods that incorporate empirical analysis. We freely traverse between the fundamentals and applications, tracking the latest research in early modern literature. Together, we contemplate what literature/classics are. We also want to explore what significance that holds for us living in the present day.

5. 学習の到達目標：主たる目標は3つ。

- ① 近世文学の特徴を知り、研究上のさまざまな基礎知識を身につける【全体から個へ】
- ② 江戸に即して、作品を読解できるようにする【読むための研究方法の獲得】
- ③ それらを踏まえて、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する【思考と表現】

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The primary goals are the following three.

- ① Understanding the characteristics of early modern literature and acquiring various foundational research knowledge [From the general to the individual].
- ② Grasping the characteristics of the Edo period, and acquiring the ability to interpret works [Acquiring methods for literary analysis].
- ③ Based on the above, thinking independently and expressing oneself in one's own words [Critical thinking and self-expression].

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

【1】9/10（火）文学のちから/研究ということ/近世文学史の全体像

1. イントロダクション（シラバス確認・エチケット・課題レポート案内）  
文学とは何か/古典の楽しみ/研究と評論/江戸に即して
2. ウォーミングUP  
くずし字/干支・年表・異体字など工具書紹介/翻字と注釈
3. 日本近世文学の特質（出版・雅俗と和漢・教訓と滑稽）  
近世文学史の諸相（上方から江戸へ、江戸から明治へ）

【2】9/11（水）近世和歌史/和本の楽しみ/歌書刊本

4. 近世和歌史概説（前期・中期・後期）  
主要参考文献紹介
5. 和本を見る・知る・さわる（古典籍のスキル）  
はじめての古典籍/写本と刊本/本の身分（表記と書型）/てのひらの江戸
6. 歌書いろいろ  
刊記/歌書の刊・印・修  
★課題レポート案内「レポートを書くために」

【3】9/12（木）多色摺り/歌仙絵/伝記

7. 多色摺りの発生と展開  
二色套印本/詩箋/絵本と浮世絵
8. 歌仙絵の魅力  
画譜・絵入り本・絵本/近世絵入り本研究の最前線
9. 西行への思慕  
歌僧似雲/江戸の今西行/伝記研究の方法（墳墓録ほか）

【4】9/13（金）古典学/狩野文庫渉猟/通信添削

10. 古典の継承  
江戸の源氏学/幕臣たちの古典享受/伊勢・徒然・百人一首の近世的展開（文化誌）
11. 東北大学附属図書館狩野文庫渉猟  
狩野亨吉伝/蔵書印/〈知の宝庫〉に分け入る

12. 元禄の添削

地方と中央／江戸のみやび

【5】9／14 (土) 俳書/短冊/文学のちから

13. 俳書の変遷

おくのほそ道は栞型本／笈の小文／美濃派歳旦帖

14. 短冊を見る・知る・さわる

短冊の楽しみ／慶安手鑑／『短冊ものがたり』『短冊覚え書』『むかしをいまに』

15. まとめと展望

DB／目録学／分類と索引／日本古典文学研究の国際化／国文研／文学のちから

**8. 成績評価方法：**

レポート（60％）、折々に課すリアクションペーパー（20％）、授業への主体的な学び（20％）に基づいて、総合的に判断する。

**9. 教科書および参考書：**

適宜プリントを配布、参考書は随時紹介する。

**10. 授業時間外学習：**適切な予復習に努め、主体的に授業に参加すること。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**12. その他：**

鉛筆（B）1本必携。授業前に石けんで手を洗っておくこと。

科目名：日本文芸形成論特論Ⅲ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 4講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LM13401, 科目ナンバリング：LJS-LIT603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：詩と散文のあいだ

2. Course Title (授業題目)：Between Poetry and Prose

3. 授業の目的と概要：本授業では〈詩と散文〉(韻文と散文、詩歌と物語など)の境界や相互の交通を問うという観点で、古典から近現代にいたる日本文学の多様な問題について考察を行う。

授業は演習形式で、受講者は(1)自身の関心に基づく報告、(2)関連する文献の検討のいずれかを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class will examine various issues in Japanese literature from classical to modern times from the perspective of questioning the boundaries and interrelationships between "poetry and prose" (rhyming text and prose, poetry and narrative, etc.).

The class will be conducted in the form of exercises, in which students will either (1) report on their own interests or (2) review relevant literature.

5. 学習の到達目標：テキストを読解する能力を高めるとともに、日本文化および批評理論についての教養を蓄え、自身の研究に応用する視点を獲得する。また、口頭発表と討議を通してディベート力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To improve the ability to analyze texts and to acquire knowledge of Japanese culture and critical theory.

To develop debate skills through oral presentations and discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 担当者による口頭発表と討論

3. 担当者による口頭発表と討論

4. 担当者による口頭発表と討論

5. 担当者による口頭発表と討論

6. 担当者による口頭発表と討論

7. 担当者による口頭発表と討論

8. 担当者による口頭発表と討論

9. 担当者による口頭発表と討論

10. 担当者による口頭発表と討論

11. 担当者による口頭発表と討論

12. 担当者による口頭発表と討論

13. 担当者による口頭発表と討論

14. 担当者による口頭発表と討論

15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表(60%)・授業への参加(出席・質疑応答)(40%)

9. 教科書および参考書：

参考文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げるテキストを受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本文学総合演習 I / Japanese Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰、仁平 政人、横溝 博

コード：LM12404, 科目ナンバリング：LJS-LIT605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本文学史の考究とその論述

2. Course Title (授業題目)：Research of History of Japanese Literature

3. 授業の目的と概要：論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of individual expressions in Japanese literature works by practicing the writing of treatises, and position their significance widely in the history of literature and culture.

5. 学習の到達目標：日本文学を着実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students comprehensively acquire advanced and specialized problem-finding ability, analytical ability, and conceptual ability necessary for steadily studying, discussing, and historically making sense of Japanese literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

基本的に、対面授業のみにより（オンラインによる参加も可能）実施する。

1. ガイダンス

2. 考察発表とそれにもとづく意見交換

3. 考察発表とそれにもとづく意見交換

4. 考察発表とそれにもとづく意見交換

5. 考察発表とそれにもとづく意見交換

6. 考察発表とそれにもとづく意見交換

7. 考察発表とそれにもとづく意見交換

8. 考察発表とそれにもとづく意見交換

9. 考察発表とそれにもとづく意見交換

10. 考察発表とそれにもとづく意見交換

11. 考察発表とそれにもとづく意見交換

12. 考察発表とそれにもとづく意見交換

13. 考察発表とそれにもとづく意見交換

14. 考察発表とそれにもとづく意見交換

15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表 [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。

参考書は、随時紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

この授業は I・II を連続して履修すること。

科目名：日本文学総合演習Ⅱ／ Japanese Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰、仁平 政人、横溝 博

コード：LM22406, 科目ナンバリング：LJS-LIT606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本文学史の考究とその論述
2. Course Title (授業題目)：Research of History of Japanese Literature
3. 授業の目的と概要：論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of individual expressions in Japanese literature works by practicing the writing of treatises, and position their significance widely in the history of literature and culture.
5. 学習の到達目標：日本文学を著実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students comprehensively acquire advanced and specialized problem-finding ability, analytical ability, and conceptual ability necessary for steadily studying, discussing, and historically making sense of Japanese literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
  15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業における発表 [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。  
参考書は、随時紹介する。
10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。



科目名：日本古典文学研究演習 I / Study of Japanese Classical Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LM11401, 科目ナンバリング：LJS-LIT607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2. Course Title (授業題目) : Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：『源氏物語』「桐壺」「帚木」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this class, you will read the volume captioned 'Kiritubo' 'Hahakigi' in Genji Monogatari. The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：『源氏物語』「桐壺」「帚木」巻を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : By carefully reading "Genji Monogatari" (Kiritubo Chapter, Hahakigi Chapter), students will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the structure of the story. Learn how to use various annotations and various dictionaries, and acquire basic knowledge related to reading comprehension of works. Through the above, by improving the ability to "read" the story, students will acquire the basic knowledge and skills to tackle the problem researchfully.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)
2. 講義 (「桐壺」巻からの物語の流れ、第一部の構成、物語の人物について)
3. 「桐壺」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「桐壺」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「桐壺」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「桐壺」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「桐壺」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「帚木」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「帚木」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「帚木」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「帚木」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「帚木」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「帚木」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「帚木」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「帚木」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート (発表のまとめ) の内容 [60%]、授業への参加 (質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】岩波文庫『源氏物語 (一) 桐壺～末摘花』(岩波書店、2017 年)を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院、2012年）がある。その他、参考文献は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

- ・本演習は、第6セメスターも続けて履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅱ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LM21401, 科目ナンバリング：LJS-LIT608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2. Course Title (授業題目) : Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：『源氏物語』「空蟬」～「末摘花」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this class, you will read the volume captioned 'Utusemi' to 'Suetumuhana' in Genji Monogatari. The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：『源氏物語』「空蟬」～「末摘花」巻を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : By carefully reading "Genji Monogatari" (Makibashira ~ Suetumuhana Chapter), students will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the structure of the story. Learn how to use various annotations and various dictionaries, and acquire basic knowledge related to reading comprehension of works. Through the above, by improving the ability to "read" the story, students will acquire the basic knowledge and skills to tackle the problem researchfully.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「空蟬」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
2. 「空蟬」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
3. 「空蟬」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「夕顔」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「夕顔」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「夕顔」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「夕顔」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「若紫」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「若紫」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「若紫」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「若紫」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「若紫」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「末摘花」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「末摘花」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「末摘花」巻の輪読と考察  
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容 [60%]、授業への参加(質疑応答を含む) [40%]

**9. 教科書および参考書：**

【テキスト】岩波文庫『源氏物語（一）桐壺～末摘花』（岩波書店、2017年）を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院、2012年）がある。その他、参考文献は随時紹介する。

**10. 授業時間外学習：**毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、**実務・実践的授業**であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**12. その他：**

- ・本演習は、第5セメスターから続けて履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅲ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM14203, 科目ナンバリング：LJS-LIT609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『今昔物語集』の表現形成
2. Course Title (授業題目)：Research on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集)
3. 授業の目的と概要： 演習形式の授業を通して、『今昔物語集』の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかわらせて考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of tales in Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集), and position their significance widely in the history of culture and society.
5. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire advanced and specialized ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1 『今昔物語集』についての解説
  - 2 『今昔物語集』についての解説
  - 3 『今昔物語集』についての解説
  - 4 『今昔物語集』についての解説
  - 5 『今昔物語集』についての解説
  - 6 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 15 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

本演習のⅣも連続して履修すること。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅳ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM24203, 科目ナンバリング：LJS-LIT610J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『今昔物語集』の表現形成
2. Course Title (授業題目)：Research on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集)
3. 授業の目的と概要： 演習形式の授業を通して、『今昔物語集』の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかわらせて考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of tales in Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集), and position their significance widely in the history of culture and society.
5. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire advanced and specialized ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 2 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 3 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 4 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 5 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 6 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
  - 15 まとめ
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

本演習のⅢから連続して履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習 I / Study of Japanese Modern Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LM13203, 科目ナンバリング：LJS-LIT611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代文学における〈生き物〉表象
2. Course Title (授業題目)：Study on representation of "living things" in Japanese Modern Literature
3. 授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈生き物〉の表象という観点を軸に、多様な社会的・文化的なコンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。  
受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this exercise is to analyze various novels from the Meiji period to recent years from the viewpoint of the representation of "living things" (especially the literary representation of animals and plants) with a view to various social and cultural contexts.  
Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.
5. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。  
(2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze, present and present literary works.  
(2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of Japanese Modern Literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
この授業はオンラインで実施する。
  1. ガイダンス
  2. ガイダンス 2
  3. 担当者による口頭発表と討論
  4. 担当者による口頭発表と討論
  5. 担当者による口頭発表と討論
  6. 担当者による口頭発表と討論
  7. 担当者による口頭発表と討論
  8. 担当者による口頭発表と討論
  9. 担当者による口頭発表と討論
  10. 担当者による口頭発表と討論
  11. 担当者による口頭発表と討論
  12. 担当者による口頭発表と討論
  13. 担当者による口頭発表と討論
  14. 担当者による口頭発表と討論
  15. 担当者による口頭発表と討論
8. 成績評価方法：  
授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)
9. 教科書および参考書：  
講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：  
本演習は I・II を連続で履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習Ⅱ／ Study of Japanese Modern Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LM23204, 科目ナンバリング：LJS-LIT612J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代文学における〈生き物〉表象
2. Course Title (授業題目)：Study on representation of "living things" in Japanese Modern Literature
3. 授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈生き物〉の表象（特に動植物に関する文学的表現）という観点を軸に、多様な社会的・文化的なコンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this exercise is to analyze various novels from the Meiji period to recent years from the viewpoint of the representation of "living things" (especially the literary representation of animals and plants) with a view to various social and cultural contexts. Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.
5. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。  
(2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze, present and present literary works.  
(2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of Japanese Modern Literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
この授業はオンラインで実施する。
  1. ガイダンス
  2. 担当者による口頭発表と討論
  3. 担当者による口頭発表と討論
  4. 担当者による口頭発表と討論
  5. 担当者による口頭発表と討論
  6. 担当者による口頭発表と討論
  7. 担当者による口頭発表と討論
  8. 担当者による口頭発表と討論
  9. 担当者による口頭発表と討論
  10. 担当者による口頭発表と討論
  11. 担当者による口頭発表と討論
  12. 担当者による口頭発表と討論
  13. 担当者による口頭発表と討論
  14. 担当者による口頭発表と討論
  15. 担当者による口頭発表と討論
8. 成績評価方法：  
授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）
9. 教科書および参考書：  
講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：  
本演習はⅠ・Ⅱを連続で履修すること。